

備前市事務事業評価シート

(平成20年度事業)

事業の概要			
事業開始年度 昭和49年～			
総合計画	大項目	基本目標	01 安全で快適に暮らせるまちづくり
	中項目	基本施策	01 生活しやすいまちづくり
	小項目	施策	14 ごみ処理
事務事業名			03 生活環境改善事業
根拠法令・規程等			備前市ごみ置場整備改良事業補助金交付要綱 等
担当課(室)			環境課
職・氏名			衛生係長・森本和成
電話			64-1821

事業の実施	
対象(誰・何に対して)	清潔で快適な暮らしを求める市民
目的(何のために)	地区が管理するごみ置場、共同墓地の整備費用の一部を補助する事により、生活環境の改善及び使用者の利便を図る。
行政活動(どのような方法で)	ごみ置場、ごみ置場給水施設の設置に伴う補助金の交付(ごみ置場整備改良事業補助金) 共同墓地の水道施設設置、駐車場施設設置及び墓参道整備工事に伴う補助金の交付(地区管理墓地整備補助金)
事業の意図する成果(どのような状態にしたいのか)	ごみ置場を設置することにより、収集効率が向上し、環境美化が図れる。地区管理墓地が整備されれば、利用者の利便が向上する。

事業の実績					
活動	実施項目	単位	平成18年度実績	平成19年度実績	平成20年度実績
	ごみ置場整備改良事業補助金	件	18	14	10
実績	①ごみ置場設置数	件	12	11	5
	②給水施設設置数	件	6	3	5
	地区管理墓地整備補助金	件	1	1	1
結果	直接事業費	千円	2,999	2,152	1,605
	必要人員	人	0.40人	0.12人	0.05人
	必要人員費	千円	3,160	939	334
	事業費計	千円	6,159	3,091	1,939
	国・県・市・支・出・金・担・受・益・者・負・担・金・入・金・債・一	千円			
その他( )					
一般財源		6,159	3,091	1,939	
受益者負担比率	%				

結果指標①	結果指標名	単位	平成18年度実績	平成19年度実績	平成20年度実績
	ごみ置場整備改良事業補助金	説明	ごみ置場、ごみ置場給水施設の設置に伴う補助金		
結果指標② <td>結果指標量</td> <td>件</td> <td>18</td> <td>14</td> <td>10</td>	結果指標量	件	18	14	10
	対前年対比	%	-	77.8%	71.4%
	活動コスト	円	5,892,900	2,928,400	1,408,636
	単位当たりコスト	円	327,383	209,171	140,864
結果指標③ <td>地区管理墓地整備補助金</td> <td>説明</td> <td>共同墓地の水道施設設置、駐車場施設設置及び墓参道整備工事に伴う補助金</td> <td></td> <td></td>	地区管理墓地整備補助金	説明	共同墓地の水道施設設置、駐車場施設設置及び墓参道整備工事に伴う補助金		
	結果指標量	件	1	1	1
	対前年対比	%	-	100.0%	100.0%
	活動コスト	円	266,316	162,600	530,364
単位当たりコスト	円	266,316	162,600	530,364	

事業の成果					
成果指標名	年度	平成18年度	平成19年度	平成20年度	到達目標値
ごみ置場整備改良事業におけるごみ置場設置数	目標値(A)	18	18	18	18
	実績値(B)	18	14	10	到達目標年度
	達成率(B/A)	100.0%	77.8%	55.6%	毎年度
成果指標設定の考え方・式や説明					
ごみ置場及び給水施設設置数 ※到達目標値について、各地区(9地区)で年間2件の設置を目標とする。					

事業の目的、対象、内容を考えながら目的妥当性の評価を行って下さい。

事業費や単位当たりのコストに留意しながら効率性の評価を行って下さい。

事業の目的やその数値目標である成果指標に留意しながら有効性の評価を行って下さい。

事務事業の評価		妥当性評価<A~E>	
妥当性の評価	市の関与の妥当性	<input type="checkbox"/> 市が実施するよう法令で義務づけられている <input type="checkbox"/> 法令で義務づけられていないが、実施しなければ大半の市民の日常生活に支障をきたす <input type="checkbox"/> 現在市が実施しているが、実施しなくても市民の日常生活に支障をきたさない <input type="checkbox"/> 事業の内容が一部の受益者に偏っている <input type="checkbox"/> 対象者は限定的であるが社会的弱者等を対象としている <input checked="" type="checkbox"/> 現在の市を取り巻く環境から目的・意図する成果は妥当である <input type="checkbox"/> 事業開始当初の目的から変化してきている <input type="checkbox"/> 事業開始当初の目的は、ほぼ達成されている <input checked="" type="checkbox"/> 厳しい財政状況であるが、実施する必要がある <input type="checkbox"/> 類似した事業がある	判定理由・課題認識 ごみ置場の設置については、公衆衛生の向上だけでなく、美観上の点からも整備の必要があり、地区住民からの設置の要望も大きいことから、本市の関与(補助金の交付)は妥当である。また、各地区が管理する共同墓地の整備についても、環境整備の点から、本市の関与(補助金の交付)は妥当である。
	市民ニーズ	<input checked="" type="checkbox"/> 説明 市民・団体等から要望・要請が強い	
効率性の評価	コスト	<input checked="" type="checkbox"/> 単位当たりコストは前年度と比較して改善している <input type="checkbox"/> 実施方法(派遣・委託)を見直すことでコストを下げる余地がある <input type="checkbox"/> 事務の電子化や事務改善によりコストを下げる余地がある <input type="checkbox"/> コスト削減の努力はしているが、下がる余地は小さい <input checked="" type="checkbox"/> 受益者負担率は適正である <input type="checkbox"/> 受益者負担率を見直す余地がある <input type="checkbox"/> サービスを維持するためこれ以外、他に手段が見当たらない <input type="checkbox"/> 現在の手段は過剰なサービスのため、改善の余地がある <input checked="" type="checkbox"/> 最適な手段を求めて職場内で改善・研修に努めている	効率性評価<A~E> 判定理由・課題認識 ごみ置場の整備については、塵芥収集事業と密接な関係があるため、整備が進めばごみの収集効率が向上する。なお、平成20年度については、設置数(補助申請)の減により、結果的に人件費が削減した。
	目的達成度	<input type="checkbox"/> 成果指標の設定は適切である <input type="checkbox"/> 成果指標の目標値は目標年度に達成できそうである <input type="checkbox"/> 成果指標達成率は前年度と比較して向上している <input checked="" type="checkbox"/> 成果指標達成率は80%未満となっている <input type="checkbox"/> 現在の事業を継続しても成果指標の向上は期待できない	有効性評価<A~E> 判定理由・課題認識 ごみ置場については、市内各地区で整備が進んでいるが、市街中心地(特に片上、伊里)などは設置場所の選定が困難なことから未整備の地区が各所に有るため、今後も事業を継続し整備を進める。
有効性の評価	市民参画度	<input type="checkbox"/> 事業について積極的にHPや広報等で情報提供している <input type="checkbox"/> 事業実施等で積極的に市民意見を反映させる仕組みがある <input type="checkbox"/> 事業にはNPO、ボランティア団体等が参画している <input type="checkbox"/> 事業のプランづくりから市民参加を得る手段をとっている	

平成21年度の状況		結果指標量①		結果指標量②		成果指標量	
目標値	18	18	1	18	18	18	18
状況	拡充	現状継続	見直し	縮小	整理統合	休止	廃止・完了
説明	家庭ごみの収集について、『拾い』(ごみ集積所ではなく、各家庭ごとに収集を行うこと。)が依然として目立つ。環境衛生指導委員と協力し、ごみ集積所設置場所の検討を行い、未整備地区への設置数の増加を図る。						

総合評価		評価区分<A~E>
前年度と比べて、設置(補助)数は減っており、整備は進んでいるものと思われるが、片上、伊里地区において、『拾い』が依然として目立つ。予算にも限りがあるが、要望を踏まえつつ、緊急性のある地区、未整備地区を重点的に整備を進めていき、最終的に『拾い』ゼロを目指す。		B 妥当性 有効性 効率性

平成22年度以降の方向性・内容		結果指標量①		結果指標量②		成果指標量	
方向性	18	18	1	18	18	18	18
状況	拡充	現状継続	見直し	縮小	整理統合	休止	廃止・完了
説明	予算にも限りがあるが、要望を踏まえつつ、緊急性のある地区、未整備地区を重点的に整備を進めていき、最終的に『拾い』ゼロを目指す。						
改善がある場合	評価の視点	改善内容	改善時期	改善により期待される効果			
	効率性	ごみ置場設置場所の検討	毎年	ごみの収集効率の向上			